

令和2年度第2回 北九州市子ども・子育て会議 会議要旨（書面開催）

議題 元気発進！子どもプラン（第3次計画）の評価方法について

- 「活動の評価」と「成果の評価」を掛け合わせて、総合評価を実施している。
- 基本的には、第2次計画の評価方法を継承しつつ、課題の部分を変更し実施するもの。
- 「成果の評価」について、一部変更を行うもの。

第2次計画		第3次計画
前年度に比べ、「上がったか」「下がったか」で評価	⇒	<u>一定の基準に比べ</u> 、「上がったか」「下がったか」で評価

- ・指標によっては、毎年度、上昇、下降を繰り返すものもあるため
 - ・計画の最終年度に一定の基準を上回る（もしくは下回る）ことを目標としているため、計画期間中、最終的な目標に対し、どれだけ達成しているのか、進捗が順調なのか把握しやすくするため
- 「一定の基準値」は、原則、過去3年間の平均値を使用する。
これまで集計を行っていない新しい指標は、直近（令和元年度）数値を使用する。
なお、全国共通の指標については、全国値も合わせて表示する。

- ⇒資料1 評価方法について
- 資料2 評価方法【図示】
- 資料3 評価方法【変更点】
- 資料4 評価方法について【R元.11.7 子ども・子育て会議意見】
- 資料5 成果の評価～今後の方針【基準値の設定等について】
- 資料6 成果指標一覧

議題の承認について、委員15名全員の承認を書面にて得た。

委員意見等

1、評価方法について

- 前計画の数値の表示

指標のうち、新たに集計を始めたもの以外は、前計画（子どもプラン第2次計画）の最終年度の数値も参考に表示すれば、動きが見えて、評価しやすくなるのでは。

- 評価の在り方

子どもプランに盛り込まれた取組の中には、人の成長に関わるものなど、数値で成

果を示すことが難しいものもある。5年～10年と時間がかかってはじめて成果の出る事業もある。

2、指標等について

○幼稚園・保育所の満足度

指標「幼稚園に対する満足度」「保育所に対する満足度」の名称については、認定こども園を含めた表記に変更することも必要。

○保育所待機児童数

指標「保育所待機児童数」について、資料6では、H29年度、H30年度の数値の記載がないが、今まで集計を行っていないということか。

○子ども食堂の開設数

「子ども食堂の開設数」を指標にしているが、開設数だけでなく、内容面の指標を設定するなど、子ども食堂の実態が見えるような評価ができるといい。

○いじめの解消率

「いじめの解消率」は、いじめの認知件数（母数）を表示すれば、より分かりやすい成果指標になるので、合わせて表示してもらいたい。

○ペアレントトレーニング参加家族数

「ペアレントトレーニング参加家族数」は、既に子どもプラン第3次計画に「5年間で累計170件」という目標が掲載されているが、改めて170件の根拠を教えてください。

3、その他

○待機児童の考え方

「保育所待機児童数」は、R1年度実績0人となっているが、希望者は全員入所できたということか。

○保育所の入所希望の把握

保育所に入所できるタイミングに合わせて、育児休業を切り上げ、早めに職場復帰する親が増えているように感じている。

待機児童対策を行うに当たっては、幅広く入所希望時期を調査することも必要ではないか。

○保幼小連携

保幼小連携は、これまでの研修を見直しており、今後の状況をしっかり見ていく必要がある。

○動画サイト等の子どもへの影響

子どもがインターネット上の動画サイト等を見る時間は、増加傾向にあると考えられる。

脳や眼、心理面への影響など各方面からアプローチしていくことが必至。

○国・県への要望

市として対応が困難なものについては、国（県）へ要望していくことも必要。

○コロナ禍の影響を踏まえた評価

子育てについて、ポジティブな捉え方が浸透してきているが、コロナ禍の影響が出るのは次年度以降。しっかりフォローしていくことが必要。

○コロナを経ての学校の姿勢

コロナ感染防止に伴う休校を経た今、学校を「行きたくなる場所にする」という覚悟が必要。

○コロナワクチン接種の推進

自粛生活を強いられることにより、成長段階にある子どもに影響が出るのではと心配している。ワクチン接種実施により、高齢者等の感染を防ぎ、子どもの成長を疎外しないよう環境整備を進めてほしい。

○子どもプランの周知

子どもプラン第3次計画は、SDGsへの紐づけや考え方を盛り込んだこと、子どもへのアンケートを実施したことなど、市外でも高く評価されており、誇らしく感じている。今後も、この計画を様々な形で浸透させていきたい。

○子ども・子育て会議の開催方法

子ども・子育て会議は、各方面の多様な意見、情報を交換できる場でもある。オンライン会議なども検討してもらいたい。